

令和4年度第1回吹田市文化振興審議会 議事要旨

- 1 開催日時 令和4年11月25日(金)
開 会 午後7時00分 閉会 午後8時30分
- 2 開催場所 吹田市役所高層棟4階特別会議室
- 3 案 件 ・会長、副会長の選任について

・市の文化行政について
- 4 出席委員

会長	藤野 一夫	芸術文化観光専門職大学芸術文化・観光学部教授
副会長	加藤 義夫	宝塚市立文化芸術センター館長
委員	三原 満里	吹田市文化団体協議会会長 吹田市手芸協会会長
委員	咲間 稿一	音楽事業制作
委員	米田 文孝	関西大学文学部教授
委員	串崎 幸代	千里金蘭大学生生活科学部准教授
委員	福留 和彦	大和大学政治経済学部教授

- 5 公開・非公開の別 公開・非公開
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議進行

【会長・副会長の選任について】

委員推薦により会長を藤野一夫委員、会長一任により副会長を加藤義夫委員に選任
(会長挨拶)

コロナ禍の中で、高齢者にとって都心に出ることが年齢的に難しい等の理由で、大阪都心部のホールには足を運ばず、大都市近郊のホールに入っている現状がある。今後メイシアターには観客が戻ってくることを期待している。また、一方でアートマネジメント人材が不足している問題があげられる。若い人が雇用の不安定さ等の理由でこの仕事を選ばなくなってきたことを耳にする。アートマネジメントや技術スタッフの環境がこれ以上薄くなると、日本の文化・芸術が崩れる可能性がある。その点を踏まえて、吹田の文化・芸術の在り方に関して色々な観点から検討していきたいと思っている。

(副会長挨拶)

宝塚市立文化芸術センターも指定管理だが、現場の意見としてはかなり厳しい条件で運用していることをひしひしと感じる。指定管理制度を見直す時期に来ているのではないかと思う。現場の経験値は高いと自負しているので、吹田の文化政策にいかせるものがあると思う。

【市の文化行政について】

(事務局説明) 吹田市の文化施設の概要について

- A 委員 浜屋敷等各施設については、また来年度にでも現地視察を行いたい。
- C 委員 コロナ禍では貸室の人数制限はあったのか。
- 事務局 市の施設に関しては、貸室や市で実施している事業については定数の半分の人数制限を設けていた時期もあったが、今は大声を発しない場合は基本的には制限なしで使用している。貸室として、コロナの影響はかなり受けている。

(吹田歴史文化まちづくりセンター (以下、浜屋敷) について)

- A 委員 浜屋敷の利用料については、かなり安いと思う。
- B 委員 浜屋敷については、10年(2005～2012)くらい浜屋敷で行われる展示会の審査員公募「こみまる展」の審査委員長として関わっていたが、古民家の座

敷や庭での展覧会事業を盛んに行っていた。こじんまりしているが、和気あいあいとしたおもしろい施設である。都市部であるため、楽器の演奏等をする場合、近隣のマンションの配慮等、音の問題は発生する。

D 委員 浜屋敷では、蔵のスペースの都合上、音楽のイベントで使用するの難しい。七草がゆ等、食文化の方向で使用すると良いと思う。

C 委員 先日行われた文化祭ではものすごい賑わいで、浜屋敷をうまく活用していると感じた。中庭がすごく素敵で、住宅地の中に突然現れる意外性がある。ただ、蔵のスペースはギャラリーとして使用するには非常に狭く活用が難しいと思う。

B 委員 以前、大阪成蹊大学でアートマネジメントを教えていた時に、学生を浜屋敷に連れて行ったが、こんな素敵なところが近くにあることに驚いていた。他市では見られない興味深い建物である。また、広報について考える必要がある。予算を使わずどう発信していくかが重要。世代別に発信の方法を変える必要があり、SNS の発信についても若い人はインスタグラム、年配の方には Facebook 等の工夫も必要。

D 委員 60 年以上在住だが、使用するまで浜屋敷があることを知らなかった。

(各施設の選定について)

A 委員 指定管理の条件や、指定管理料についても資料として次回用意をお願いしたい。選定については、全て公募か？

事務局 メイシアターは非公募、浜屋敷と南山田市民ギャラリーは公募である。この 2 施設の公募に関しては、営利団体でないことと、吹田市民を主として構成されていることを条件として選定している。

A 委員 選定委員会は行政内部で選定しているのか、それとも他の指定管理と一括で選定しているのか。

事務局 一括で選定はしておらず、それぞれの施設毎に選定委員会を開いている。メイシアターについては、非公募であるが選定委員会を開いている。

E 委員 南山田市民ギャラリーの選定委員をしていたが、地域の方が手作りで運営

している印象があった。また、選定と実際の運営のずれを感じた。実際の運営に合わせた運営基準を作れたらよかったと感じている。

課題としては、住宅地ということもあり使用する人が限られるため、市民の方全員に使用してもらう方法を考える必要がある。

A 委員 基本的には人件費と光熱費だけか。

事務局 南山田市民ギャラリーに関しては、ほぼ人件費であり、施設の管理料については、市で支払っている。

(利用料金制について)

A 委員 使用料については利用料金制を採用している施設はあるか？

事務局 3施設とも利用料金制ではない。

B 委員 利用料金制で行われる展覧会事業は費やした予算の中で、良くて30%悪くて10%のリターンがある。50%に達すれば成功だが、常に赤字が積み重なる制度ではある。利益率の高い貸館事業が収入源となるが、コロナ禍でのキャンセルの問題もある。利益の面では、積極的に事業を展開するという発想にはなりづらいが、文化・芸術という視点でやらなければならない事業もある。10年、20年使用することでの、施設のリノベーションの予算建てについても考えなければならない。

A 委員 音楽も同じで、全国平均では、公立文化施設の利用料金で賄える割合は30%に満たない。70%は税金、国庫補助金で賄われている。

今後メイシアターがどのように、利用率を戻していくかについては、平成28年度にオープンした、「豊中市立文化芸術センター」、来年オープンする茨木市の「おにクル」、高槻市の「高槻城公園芸術文化劇場」と北摂は競合状態であることも考慮する必要がある。

(メイシアターの活用方法と今後の課題について)

B 委員 後発の新しいホールと利用者を奪い合う形となった場合、新しいホールの方が価値が高く感じることもある。

D 委員 高校の吹奏楽をサポートしていると、配信設備を持っているホールで子供

達は演奏をしたがる。今の時流に合わせた設備が整っているかどうかが重要。

B 委員 利用者ニーズ的には時代の流れに応じて付加価値を付ける事が望まれている。後発のホールとの差別化のために、メイシアターについてはブランディング化が必要ではないか。

A 委員 メイシアターで行われている関西二期会のオペラ等はメイシアターのブランディングになるのではないか。

C 委員 メイシアターでも一般の人を募ってバックステージの見学ができる事業が一時行われていたが、とても人気だった。

F 委員 昨年箕面市の船場にオープンした文化芸能劇場は、料金設定が高い印象を受けるので、他市の実績と比べてみてはどうかと思う。指定管理で行う現場の環境劣化についての問題の洗い出しも必要。

また、計画の中で記載されている文化的民主主義を実現するため、展示会等に参加した人が文化的活動の後に内容について食事等をしながら意見交換できるような場があればよい。そういう取組が街全体で行われることで使われるお金で、全額でなくてもホールの維持費等に還元していくことができるのではないか。

A 委員 箕面のように、市が予算を投入しなくても営利的に施設を運営できることが一般的だとは思えないが、何か特殊な事情があるのか。

F 委員 箕面がどういう仕組みなのかは分からないが、それを含め基本的な運営方法について、メイシアターを含めた北摂地域のホールの違いについて、次回以降整理をお願いしたい。

C 委員 吹田は公民館の活動も活発であるが、メイシアターの情報まわってこない。人を呼ぶのであれば、まち全体で情報共有ができればよい。

事務局 メイシアターの課題として、情報発信力が挙げられる。メイシアター前の公園もリニューアルを行いメイシアターと一体で事業ができるようになった。音楽系のイベントも騒音を配慮しながら開催している。

(その他意見)

事務局 (資料 5, 6 の説明)

C 委員 子供の美術力が落ちてきていると感じる。公募の美術展覧会の中学生以上の子供部門を吹田で実施してはどうか。

A 委員 学校の先生の業務量が増えてきていることもあり、部活も含め地域でどういった取組を考えていくかは大きな問題。行政のどこかの部署でやらなければならない。

事務局 吹田市では教育委員会が主導で検討に入っている。

A 委員 そういった情報提供もまたお願いしたい。